

京大病院は「がんゲノム医療中核拠点病院」に選定されました。

2018年2月14日 厚生労働省は、「がんゲノム医療」の中心的な役割を担う全国11施設を「がんゲノム医療中核拠点病院」に選定しました。当院もその1施設として4月に厚生労働大臣から正式な指定を受ける予定です。当院は、がんゲノム医療を牽引する高度な機能を有する医療機関として、患者さんやその家族のがんゲノム医療への理解を促し、がんゲノム検査の実施や治療法選択の意思決定支援を進めて参ります。

がんゲノム医療とは、がんの原因となる多くの遺伝子の異常を調べて、効果の見込める薬や副作用の少ない薬を選択するなど、個々のがんの特徴にあった最適な治療法を探る次世代のがん医療です。当院では、2015年より200種類以上のがん関連遺伝子を調べる「がんクリニカルシーケンス検査（オンコプライム検査）」を自由診療で開始し、原発不明がん、希少がん、標準治療に不応となり現時点では治療法が見つからない患者さんを対象に、新たな治療の可能性を探し出すための情報を提供しています。詳しくは当院ホームページでご紹介しておりますのでご覧ください。[\(http://oncoprime.cancer.kuhp.kyoto-u.ac.jp/\)](http://oncoprime.cancer.kuhp.kyoto-u.ac.jp/) なお、4月以降には、先進医療としてがんゲノム検査を実施する予定ですが、現時点では、民間保険の先進医療特約等の適用があるかどうかは不明です。詳しくは保険会社へお問い合わせください。

我が国のがんゲノム医療はまだ開発の途上にあり、遺伝子検査を行っても治療薬が見つかる患者さんは1~2割程度にとどまっています。また、治験や先進医療などで実施できる場合はごく一部で、多くの場合は適応外の治療薬になります。この点も、十分ご理解いただく必要があります。

また、厚生労働省は、ゲノム医療の診療データを全国から集めて一元管理し、集積したデータを人工知能（AI）で解析することで、がんの発生や進展のメカニズムを明らかにし、新たな薬や診断法の研究開発につなげることを期待しています。このように、がんゲノム医療は、これから多くのがん患者さんの協力を得て新しい治療法を見つけ出す、という研究的な側面を持っています。京大病院も、がんゲノム医療の発展に貢献し、一日も早くそれぞれの患者さんに最適な治療をお届けできるよう尽力する所存です。

《相談窓口》

京都大学医学部附属病院 がんクリニカルシーケンス検査問合せ窓口

電話 075-751-3110（受付時間 平日 10:00~17:00）

※具体的な検査の適応（検査を受けた方がよいか）や診療に関するご質問については、メールや電話ではお答えできかねますので、地域医療連携室を通じてセカンドオピニオン外来を受診いただくか、現在かかっておられる主治医の先生を通じて、お問合せください。

がんクリニカルシーケンス検査
OncoPrime